プロスポーツ
川崎記念
号外版
PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

地元Vは譲れぬ郡司浩平

川崎競輪場開設76周年記念「桜花賞・海老澤清杯」は、4月19日～22日の日程で、ナイター開催で行われる。今シリーズは郡司浩平、脇本雄太、新山響平、岩本俊介、平原康多、犬伏湧也のSS班6名が参戦する素晴らしいメンバー。地元勢はエースの郡司を中心に松谷秀幸、龍、眞也の佐々木兄弟らが一丸となって強豪を迎え撃つ。間近に迫ったダービーを占う意味でも見逃せない。

超豪華メンバーによる優勝争い。優勝候補は5指に余るが、この大会で圧倒的な存在感を示しているのは、当所ホームの郡司浩平だ。4連覇を含む5Vは他の追随を許さない。成績も高いレベルで安定していて、6V目達成に視界は良好。今年は年頭から快調なペースで飛ばしていて、G3では2V、準V2回。ウィナーズカップは決勝に乗っている。連対率は75%と素晴らしい数字だ。豊かなスピードを活かした自力攻撃は破壊力満点だし、番手戦の経験も多く隙は見せない。主役を演じて地元ファンの期待に応える。松谷秀幸も調子は申し分ない。ウィナーズカップの初日特選は、目標の深谷知広が出切れずに終わると、最終的に主導権を握った眞杉匠にスイッチして差し切っている。全日本選抜の初日特選では、郡司の逃げを差してワンツーを決めた実績もあり、援護役だけにはとどまらない。

郡司 浩平

全日本選抜で優勝し、真っ先にグランプリ2025の出場権をゲットした脇本雄太は、同時にグランプリスラムの称号も手にした。その後も力強い走りを披露していて、ウィナーズカップは優参成らずも2勝、4月高知記念の二次予選では、超速まくりを繰り出し、2着以下を4車身千切っている。持病の腰痛と付き合いながらの参戦なので、以前のような連勝は少なくなったものの、スピードを遺憾なく発揮できたときの勝ちっぷりは豪快そのもの。圧勝しても不思議ではない。

年頭は今ひとつの感もあった新山響平は、ようやくエンジンがかかってきた。3月名古屋記念では二次予選、準決を逃げ切りで連勝すると、ウィナーズカップ[1][6]②❸着。初日特選では今節も対決する郡司、脇本らをまくりで撃破。決勝で赤板から先手を奪い、ゴール前まで粘った脚勢も素晴らしかった。新山にとっては、自転車競技では世界を舞台に大活躍している中野慎詞の存在も心強い。現に昨年11月の四日市記念では、中野の逃げに乗った新山が優勝している。ここも絶好の展開が巡ってくる可能性は大いにありそうだ。

脇本 雄太

4月から新SS班となった犬伏湧也にも魅力を感じる。4月高知記念では初日特選で落車し、体調が心配されたものの、二次予選、準決をまくって連勝し不安を一掃。決勝も豪快な仕掛けで2着に粘った。タイミングよく仕掛けて主導権を握れば、勝ち負けに持ち込める。

関東勢も駒数はそろっている。SS班の平原康多をはじめ佐々木悠葵、鈴木竜士、長島大介と自力型ばかりだ。平原は3月玉野記念の二次予選で落車し、ウィナーズカップを欠場。体調が浮沈の鍵となりそうだ。佐々木は全日本選抜②⑦②②着と3連対を果たすと、ウィナーズカップは準決に進出と悪くない。鈴木も2月小松島MNG3で優勝すると、3月大垣G3は[1]①①❻着、同月松戸[1]②❷着と動き軽快。

新山 響平

桜花賞・海老澤清杯 出場予定選手

※2025年04月08日現在のデータです。

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点	級班	氏名	登録地	期別	競走得点
SS	平原康多	埼玉	87期	111.77	S1	長島大介	栃木	96期	110.57	S2	藤原憲征	新潟	85期	99.04	S2	三浦雄大	宮城	98期	92.20	S2	蒋野翔太	徳島	115期	94.49
SS	岩本俊介	千葉	94期	116.65	S1	松谷秀幸	神奈川	96期	114.41	S2	小林則之	静岡	85期	95.09	S2	増原正人	広島	98期	98.88	S2	阪本和也	長崎	115期	103.30
SS	脇本雄太	福井	94期	116.19	S1	鈴木竜士	東京	107期	112.58	S2	佐々木省司	青森	86期	95.53	S2	藤岡隆治	徳島	98期	99.55	S2	櫻井祐太郎	宮城	117期	104.68
SS	郡司浩平	神奈川	99期	118.18	S1	山岸佳太	茨城	107期	106.13	S2	大崎飛雄馬	愛媛	88期	97.15	S2	猪狩祐樹	福島	99期	97.19	S2	山本勝利	東京	117期	103.87
SS	新山響平	青森	107期	114.21	S1	中西大	和歌山	107期	100.74	S2	山本健也	千葉	89期	99.23	S2	三好恵一郎	群馬	99期	95.94	S2	佐々木和紀	神奈川	117期	95.71
SS	犬伏湧也	徳島	119期	115.00	S1	佐々木龍	神奈川	109期	108.12	S2	大澤雄大	埼玉	89期	99.45	S2	高橋昇平	埼玉	99期	98.00	S2	小松原正登	福井	117期	99.29
S1	伏見俊昭	福島	75期	106.27	S1	山田諒	岐阜	113期	109.41	S2	上田国広	三重	89期	104.63	S2	竹内雄作	岐阜	99期	98.12	S2	土生敦弘	大阪	117期	99.69
S1	香川雄介	香川	76期	108.13	S1	高橋晋也	福島	115期	106.65	S2	大塚玲	神奈川	89期	104.72	S2	藤井昭吾	滋賀	99期	102.05	S2	緒方将樹	熊本	117期	101.46
S1	諸橋愛	新潟	79期	108.81	S1	佐々木悠葵	群馬	115期	113.44	S2	山下渡	茨城	91期	102.70	S2	保科千春	宮城	100期	104.62	S2	窪木一茂	福島	119期	102.00
S1	桑原大志	山口	80期	108.11	S1	山田雄大	埼玉	117期	93.75	S2	原田泰志	新潟	91期	94.00	S2	久米康平	徳島	100期	103.94	S2	鈴木浩太	千葉	119期	101.00
S1	東口善朋	和歌山	85期	109.33	S1	佐々木眞也	神奈川	117期	109.90	S2	内田英介	東京	91期	95.19	S2	清水剛志	福井	103期	103.64	S2	上野雅彦	香川	119期	104.42
S1	中川誠一郎	熊本	85期	105.88	S1	新村穣	神奈川	119期	104.00	S2	戸田洋平	岡山	92期	98.32	S2	渡邉雄太	静岡	105期	104.22	S2	渡口勝成	山口	119期	102.11
S1	園田匠	福岡	87期	108.93	S1	山根将太	岡山	119期	99.87	S2	椎木尾拓哉	和歌山	93期	109.14	S2	吉武信太朗	愛媛	107期	98.81	S2	中野慎詞	岩手	121期	112.70
S1	吉本卓仁	福岡	89期	107.80	S1	東矢圭吾	熊本	121期	106.54	S2	加賀山淳	千葉	94期	98.05	S2	瀬戸晋作	長崎	107期	101.74	S2	滝本幸正	新潟	121期	94.93
S1	浅井康太	三重	90期	113.06	S2	川口満宏	東京	58期	98.59	S2	不破将登	岐阜	94期	102.77	S2	竹内翼	広島	109期	97.42	S2	齋藤雄行	神奈川	121期	96.52
S1	稲川翔	大阪	90期	107.29	S2	那須久幸	福岡	71期	100.12	S2	相川永伍	埼玉	95期	103.95	S2	下岡将也	三重	111期	91.84	S2	小西晴己	三重	121期	93.60
S1	大川龍二	広島	91期	103.67	S2	齊藤竜也	神奈川	73期	97.29	S2	北野良栄	茨城	95期	92.92	S2	小森貴大	福井	111期	103.70	S2	松本秀之慎	熊本	121期	101.11
S1	和田圭	宮城	92期	109.20	S2	山口貴嗣	福岡	82期	99.54	S2	白上翔	滋賀	95期	96.15	S2	黒沢征治	埼玉	113期	106.26	S2	西田優大	広島	123期	105.00
S1	鈴木庸之	新潟	92期	91.12	S2	佐藤慎太郎	福島	83期	97.78	S2	田中勇二	岡山	95期	105.37	S2	鈴木輝大	東京	113期	95.48	S2	梶原海斗	福岡	123期	101.27
S1	伊藤信	大阪	92期	103.47	S2	安部達也	埼玉	83期	95.71	S2	東龍之介	神奈川	96期	101.83	S2	磯島成介	青森	115期	102.96	S2	栗山和樹	岐阜	125期	97.60
S1	片岡迪之	岡山	93期	105.45	S2	大木雅也	静岡	83期	92.96	S2	山下一輝	山口	96期	99.47	S2	阿部架惟都	宮城	115期	93.84					
S1	根田空史	千葉	94期	106.38	S2	櫻井学	群馬	84期	100.08	S2	寺崎祐樹	熊本	97期	96.68	S2	幸田望夢	栃木	115期	99.27					

プロスポーツ

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

桜花賞・海老澤清杯 号外版

根田 空史（千葉/94期）

3月松戸では鈴木竜、岡崎智らを相手に逃げ切りで優勝を手にしていて、競走得点以上の機動力がある。トップスピード、ダッシュ力は一級品で、仕掛けがツボにはまったときの一発には注意したい。

櫻井 祐太郎（宮城/117期）

3月別府では待望のS級初Vを達成。展開が向いたとはいえ、快速まくりを繰り出して2着の吉田拓らを4車身千切った。連がらみの8割超が先行だが、まくりの破壊力にも素晴らしいものがある。

栗山 和樹（岐阜/125期）

2月川崎で特別昇級を達成すると、S級初戦の同月熊本は2①❺着といきなり決勝に進出した。3日間先行していて競走内容も評価できる。その後は練習中の怪我で一頓挫あったが、初のG3でどこまでやれるか注目される。

地元地区推奨選手 俺の出番だ!!

新村 穣

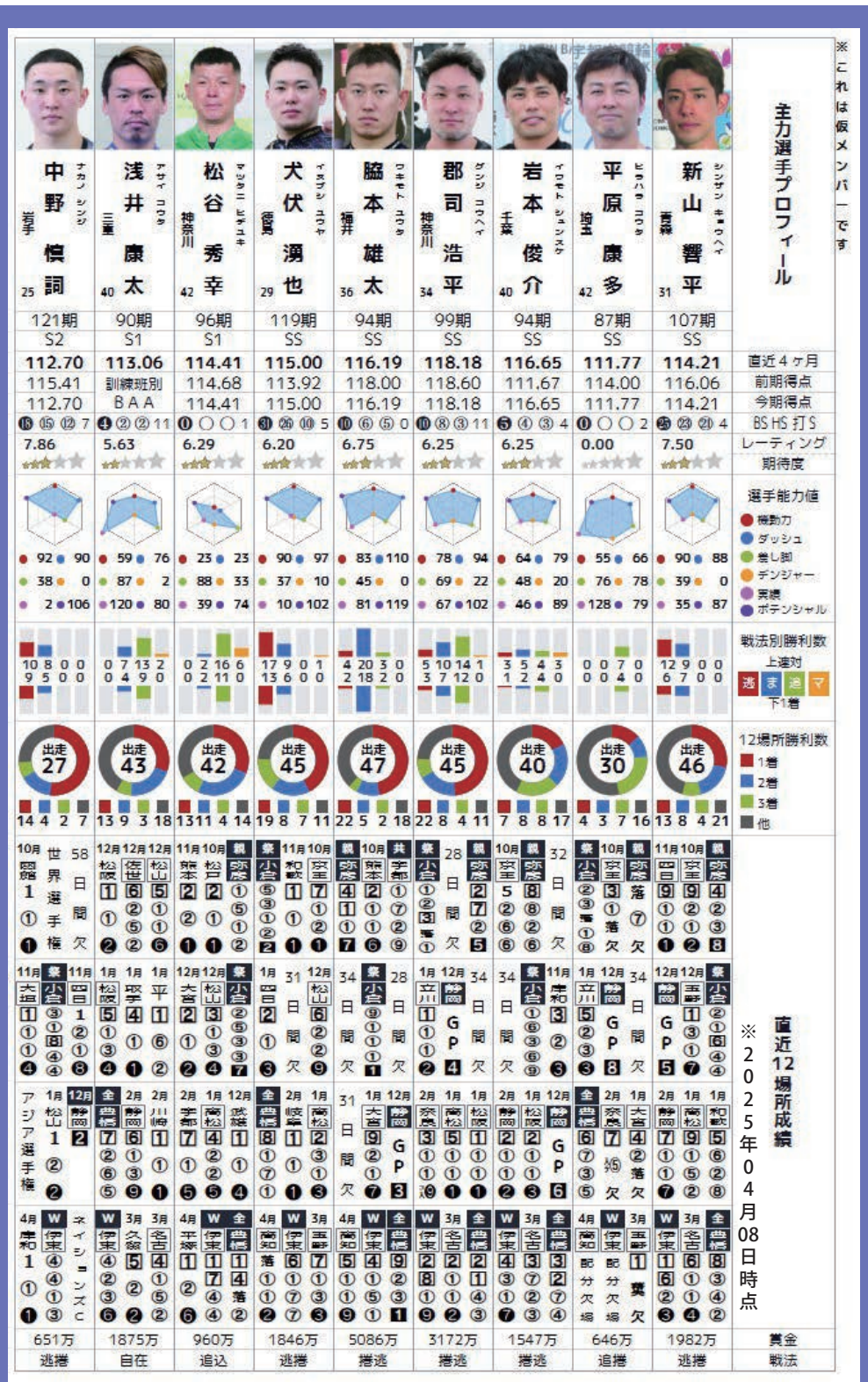
（神奈川/119期）

まだS級で優勝経験はないものの、今期は初めてS1班に昇格した。昨年は松戸記念、小田原記念で決勝に乗っていて、南関地区のG3開催では好走歴が多い。近況は一息もホームバンクの記念で躍動するか。

大塚 玲

（神奈川/89期）

43歳のベテランながら差し脚に陰りは見られない。3月大垣G3では3回の確定板入りを果たすと、同月四日市1②❻着、4月平塚2③①着と連対ラッシュだ。同格戦は連の対象から外せない。



車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。
競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。